

広報・公聴の弱点を補完する

「行政コミュニケーションの最適化」で  
実現する双方向参加型地域経営インフラ

「ポリネコ ! CHIKUMA」



ポリネコ!



2023年度  
『こども基本法』  
への対応

2023年7月3日

株式会社ハンマーバード 代表  
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員  
岩田崇

[takashi@hammerbird.jp](mailto:takashi@hammerbird.jp)

東京都品川区荏原6-2-5-5F

Mayor's  
column

## 千曲市長の 客万来

### 第14回

### 「こども基本法元年」



千曲市長 小川 修一

**今** 年の4月から施行された「こども基本法」。全てのこどもが幸せな生活を送ることができる社会を目指して、その基本的な考え方をはっきりさせ、国、県、市町村など社会全体で、こどもに関する取組「こども施策」を進めるため作られました。

その基本理念の一つに「全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること」が明示されています（こども基本法第3条3号）。

こどもが意見を表明する方法には、インターネットを使ったアンケート、行政の職員が直接会っ

て意見を聴く、大人の会議にこどもが参加する、こどもを対象としたパブリックコメント（意見募集）が考えられます。

本市ではインターネットを使ったアンケートを考えています。今月の特集でも取り上げている『ポリネコ！CHIKUMA』（以下「ポリネコ」）というインターネットによる新しい住民参加の仕組みを活用し、児童生徒を中心にすべてのこどもが意見を表明し、社会的活動に参画できるようにします。ポリネコは、回答者が市に関するデータなどを知り、学びながら意思表示を行ない、双方向で市政に参加できる仕組みです。教職員、保護者、市民の皆さんにもぜひ知って、参加していただきたいです。

市では、こども基本法への理解を深め、全国に先駆け自分の頭で考え行動できるこどもを応援する仕組みを作っていきます。次代を担うこどもが積極的に意見表明を行ない、双方向でコミュニケーションをとれば、地域全体の課題解決力を高め、持続性のあるまちづくりにもつながります。

こどもが暮らしやすいまちは、全世代にとって暮らしやすいまちです。千曲市誕生20周年の今年は、千曲市のこども基本法元年にもなります！

# こども基本法が自治体に求めることと、対応の壁

## (こども基本法第3条3 基本理念、及び5条)

全てのこどもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること。

地方公共団体は、基本理念にのっとり、こども施策に関し、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、その区域内におけるこどもの状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。

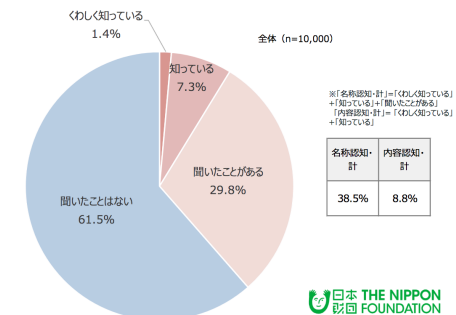
### ・ 必須条件

子どもが自ら声を上げるには、子どもが自分の権利を知っていること、そして周りの大人が子どもの権利を認識し、支援することが不可欠

### ・ 現状

ただアンケートフォームを設置しても意見表明および社会的活動に参画する機会とはならない

現在の「こども基本法」について”詳しく知っている”認知は1.4%  
(内容認知で8.8%、日本財団2023)



### ・ 構造的課題

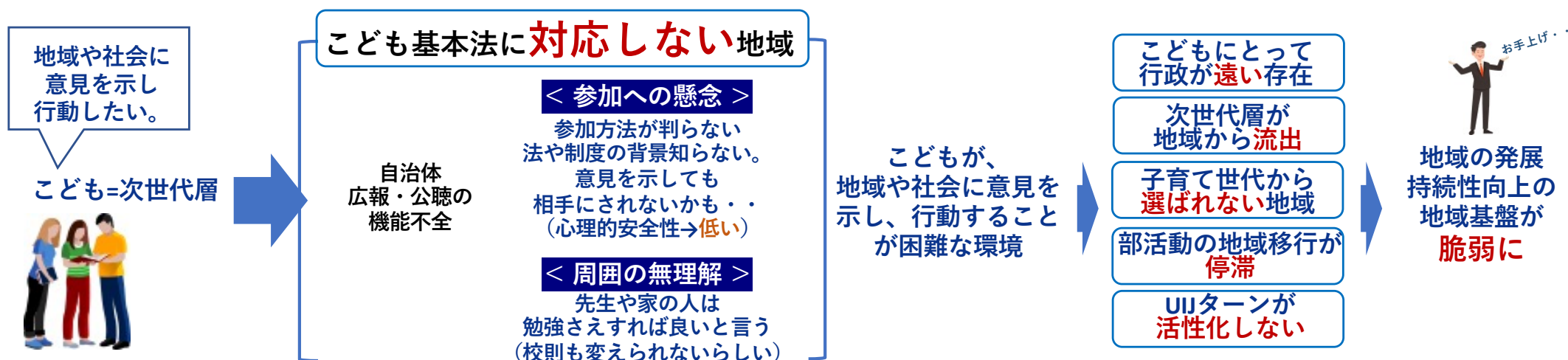
一般的な広報では、「こども基本法」の背景、趣旨がこどもにも大人にも共有されない

こども基本法に対応できない (すると、どうなるか?)

# こども基本法に対応しないことは、地域の持続性にとってマイナス

一部のこども（小中高生、大学生）が、こども基本法を理解し、意思表示や社会的活動への参画を行おうとしても、まわりのこどもや、大人が無理解であると地域として対応できず、結果的に主体的、能動的な次世代層から地域から離れます。

人口動態の数値以上に、主体的、能動的な住民にとって暮らしにくいことは地域経営にマイナスです。



## こども基本法への対応は、地域経営の基盤形成に直結

・構造的課題

一般的な広報では、「こども基本法」の背景、趣旨がこどもにも大人にも共有されない

どうすればいいか？

# ＝住民が地域課題について知り、学びながら意思表示できる方法で対応

で「こども基本法」の背景・趣旨をこどもも大人も共有することが可能に。

## 行政コミュニケーション の現状

## 克服すべき 問題点

## 対策・処方箋（打ち手）としての コミュニケーションデザイン

- 広報と公聴で  
効果検証が殆ど行われていない
- 思い込みと先入観で回答  
できる意識調査/世論調査
- 若年層の声を聞かない  
(人口流出の背景)
- 行政は、住民の理解がどの  
ような状態か判らない
- 住民は、行政からの情報に  
意思表示できない
- 行政と住民の継続的な  
コミュニケーションが殆どない  
(ほぼ全てが単発・点)
- 「信頼/TRUST」を育てる  
構造になっていない

『これまでの広報・公聴に  
限界があること』

このことを前提に  
コミュニケーションの  
再構築を行う

住民が思い込みと先入観を  
最小化しながら地域課題に  
意思表示（公聴）を行うことができ、  
その結果から、住民の理解状態を  
見える化し（広報）を改善する  
プロセスを継続的に行うことで  
「信頼/TRUST」を育てる  
コミュニケーション構造を実現する。

この構造がこれまでの  
広報・公聴の弱点を補完し、  
自治体コミュニケーションを  
一方通行から、  
双方向かつ

大人数が参加して、  
地域にデータとファクトに基づく  
「信頼/TRUST」をつくるものに  
進化・発展させる。

- 1 データとファクトを学習しながら  
意思表示を行える  
学習型輿論調査（公聴）機能
- 2 データとファクトの正答率から  
広報の改善点を把握できる機能
- 3 メール登録によって  
継続的に行政と繋がる機能
- 4 従来の意識調査に対応する  
アンケート機能
- 5 二者択一の賛否ではなく  
条件等も含めた意思表示に対応して  
全体の最適解を見出す  
ビジョン形成、意思形成機能
- 6 政策・施策に繋がる  
議会と一緒に考える機能
- 7 これらを運営する  
政策分析コンサル機能

団体自治と住民自治を統合する  
コミュニケーションとして  
ほぼ機能不全



# こども基本法への対応を『ポリネコ！CHIKUMA』で推進-①背景

## こどもを取り巻く状況-さまざま法や取り組みが次世代層に、自律的思考と主体的行動を求めている

### 日本国憲法

前文及び第1章-国民主権

### 新学習指導要領

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

### 生徒指導提要

意義を適切に説明できない校則の見直し

### デジタルシチズンシップ

デジタル機器やインターネットを活用して、市民が自身の力で身の回りや社会の課題を解決できるスキルを醸成する

### 主権者教育

国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成していくこと

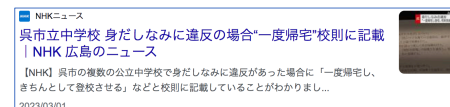
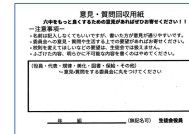
### こども基本法 2023年4月施行

全てのこどもについて、その年齢及び発達に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して**意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること。**

地方公共団体は、基本理念にのっとり、こども施策に関し、国及び他の地方公共団体との連携を図りつつ、**その区域内におけるこどもの状況に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。**



#### ・自律を抑える地域/学校



#### こども=次世代層

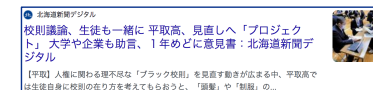


当事者として地域や社会に参画できるんだ。意見を示し、行動したい。

しかし、  
多くの人（こどもと大人）がこの法律や取り組みを知らないために、自律と主体性を抑えてしまうケースも発生。  
(個別対応ではなく、全体最適の取り組みが有効。)



#### ・自律の機会をつくる地域/学校



自律的思考と主体性を育む地域とそうではない地域で、  
大きな差が生じてしまう。

千曲市は包括的対応をいち早く行うことで、  
〈次世代層が育ち、選ばれる街に〉

# こども基本法への対応を 『ポリネコ！CHIKUMA』で推進-②概要

- ・『ポリネコ！CHIKUMA』の学習型意思表示及び合意形成の機能を活用
- ・モデル校で先行実施と検証を行い、得られた知見をもとに全市で展開を行う



を活用することで、こども基本法の趣旨や背景を理解した、こども（中学生）と大人（教職員、保護者）が一緒に意思表示を行い千曲市のこども環境を構築。

夏休み前

モデル校での  
先行実施

・教職員の方々



・生徒（1学年）



・保護者（PTA）



・市内の保護者にも  
参加告知

設問及び  
運用の  
ブラッシュ  
アップ

9月から11月

市内全校（すべてのこども）  
を対象にした実施

13400名が主な対象

市内在住大学生にも告知

市議会議員に参加要請

中学 4 校

高校 2 校



屋代中学校



更埴西中学校

屋代

屋代高校



屋代南高校



埴生中学校



戸倉上山田  
中学校

\* 市外在住者は関係人口として  
『ポリネコ！CHIKUMA』に参加  
\* 上記高校以外の高校生にも  
参加を告知

小学校 9 校

\* 教職員、保護者を中心に  
『ポリネコ！CHIKUMA』に参加

屋代小学校

東小学校

埴生小学校

治田小学校

八幡小学校

戸倉小学校

更級小学校

五加小学校

上山田小学校

2023年度中

千曲市  
『こども計画』

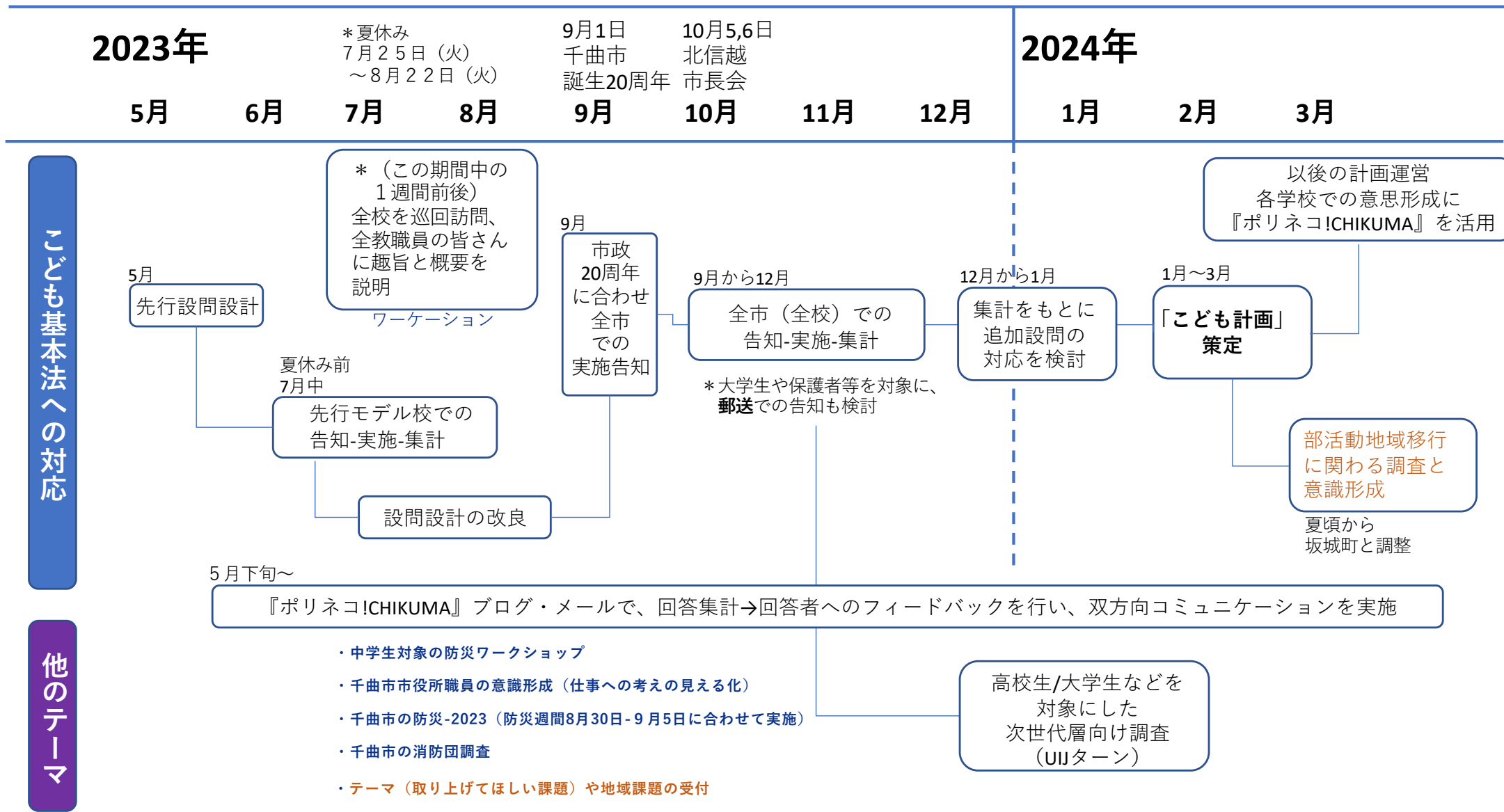


千曲市に暮らす、全ての  
こどもが尊重され  
自身の暮らし、  
(家庭、学校など)  
地域社会などに、  
(若者支援など)  
意見を示し、  
主体的に  
課題解決に関われる  
環境をこどもと大人が  
力を合わせて構築

千曲市は包括的対応をいち早く行うことで、  
〈次世代層が育ち、選ばれる街に〉

# こども基本法への対応を中心に、『ポリネコ！CHIKUMA』で推進-③-スケジュール

- ・学校の年間予定すり合わせを行いスケジュールを調整
- ・夏休み期間中に、市内の全校を訪問し全校の教職員の皆さんに説明を行う予定
- ・並行して他のテーマを展開
- ・こども基本法への対応は、「こども計画」の策定その他、部活動の地域移行も視野に入れる





# 提案の仕組み

- ・市役所から住民に知って欲しいことを（ラーニングパート）で設問化、回答者は（意思表示パート）の設問を通じて、回答タイプ（自由記述も含め）として意思表示できるようになります。このプロセスを通じて双方向・継続的なコミュニケーションを実現。（システム＋運用/設問開発の対応）
- ・一般的なアンケート、意識調査としての運用にも対応。



## 行政視点のメリット

- ・住民の認知や理解の程度に基づいたコミュニケーションを企画、策定できるようになる
- ・個々人や地域毎の事情の把握が可能となり、対策を講じることがしやすくなる
- ・住民に、いつでも参加できる機会を提供できる
- ・現状把握ができるため、目標設定が明確になる(EBPM)

## 住民視点のメリット

- ・自分の困りごとや心配を伝える方法がいつもある
- ・フィードバックを得られる（閉塞感からの脱却）

行政と市民が  
連携した  
課題解決と  
改善が可能に

- ・テーマによって、議会議員と一緒に回答タイプを示し合うことも可能。
- ・回答タイプ\*は8～10パターンを用意。タイプごとに追加設問を提示することで、精度の高い地域の意思形成に対応。

（回答タイプの例）



## ラーニングパート

それぞれに参考情報が付き、回答直後に正解を知ることができます。  
正解を知った上で、（おさらい回答）機能を使うことで、理解レベルをあげつつ、  
回答者の認識傾向（正解/不正解の傾向）を確認できます。

こども基本法

日本社会で最も強い力である「主権」は、誰が持っている  
と定められていますか？

回答して参考情報をチェック

こども基本法

民主主義は多数決でものごと  
が決まる仕組みである、これ  
は、YESorNO?

回答して参考情報をチェック

こども基本法

先生が「校則は変えられな  
い」と言ったら、校則は変え  
られない。これはYESorNO?

回答して参考情報をチェック

こども基本法

こども基本法の理念はいくつ  
ありますか？


回答して参考情報をチェック

## 意思表示パート

ラーニングパートでの回答を踏まえて、どのような形で千曲市のこどもが地域や社会に意思表示を行い、参画する環境を持つとよいかの意思表示を行います。

回答を通じて8-10前後の考えタイプを意思として示すことができます。

(自由記述欄も設置)



こども基本法


「こども基本法」に基づき、  
日々暮らしのことに意見を  
表明する機会について、  
あなたは、どのようなかたち  
が望ましいと考えますか？

意見を言えれば良い  
(単発)

言った意見に返信があると  
良い(往復)

言った意見に返信があり、  
そこにさらに意見を言える  
と良い(継続的双方向)

次のステップへ




こども基本法

「こども基本法」に基づき、  
地域の課題や学校や暮らし等  
あなたに関わる事柄に意見を  
示せるようになった時、その  
対応方法について、大人とこ  
どもの関わりはどういう形が  
望ましいと考えますか？

大人にまかせる方が  
望ましい

こどもと大人が一緒に関わ  
る方が望ましい

次のステップへ




こども基本法

「こども基本法」に基づき、  
地域の課題や学校や暮らし等  
あなたに関わる事柄に意見を  
示せるようになった時、その  
対応方法は、その都度、個別  
に用意するか、こども議会や  
この「ポリネコ！」のように  
仕組み、制度として用意して  
おくかどちらが良いと考えま  
すか？

その都度、個別に用意する

仕組み、制度を用意する

次のステップへ



こども基本法

あなたは、自分の暮らしや学  
び、地域課題への意見表明や、  
地域参加に積極的に参加した  
いと考えますか？

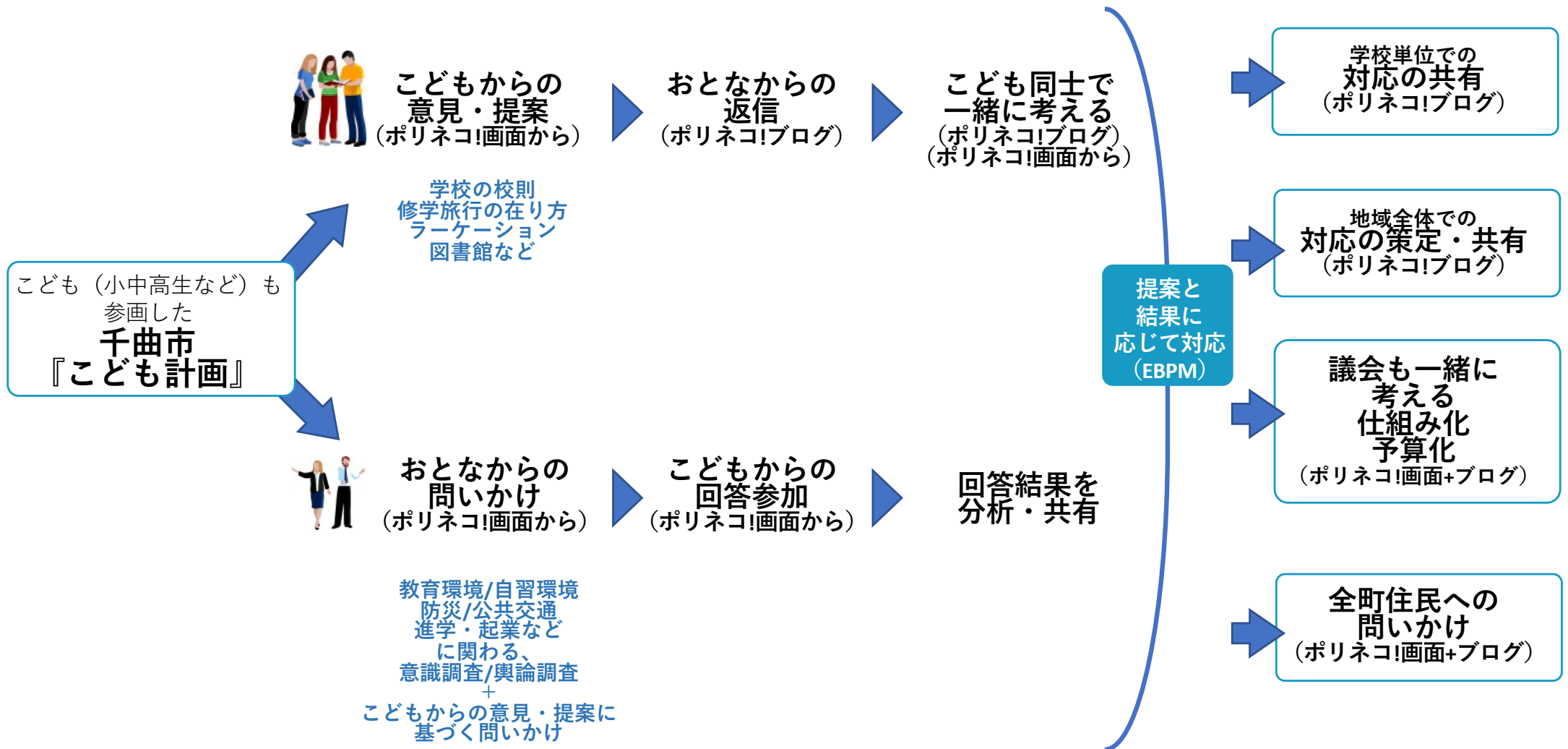
はい

いいえ

次のステップへ

# こども基本法の背景・趣旨を地域の こどもと大人が共有して意思表示・参画環境を実現

(学校、地域) と (こども、おとな) がいつでも繋がりに一緒に考え行動できる地域に  
地域に開かれた教育環境を自治体DX (デジタル) に対応しつつ実現



# 先行モデル校での実施概要

## ・実施校

千曲市立中学1校を想定（屋代中学）

## ・実施時期

2023年7月（夏休み前を想定）

## ・企画概要

防災ワークショップの枠組みを参照しつつ、教職員の皆様の理解と協力を得られるように打ち合わせ機会、フィードバックヒアリングの機会を設ける

①教職員の皆様との打ち合わせ（企画趣旨の周知と理解）



②対象学年を対象にチラシで参加告知を実施

（保護者の方々への参加も呼びかける-PTAとの打ち合わせも想定）



③対象学年へのワークショップを実施

（②で未回答者はここで回答可能）



④回答を集計



⑤教職員の方々からのフィードバックヒアリングを実施



⑥全市展開に向けた知見をまとめる